

モラルサイエンス研究会（令和2年7月1日）発表要旨

運研究をめぐるトピックの整理 —徳、幸福、平等、そして責任—

人間学研究室
研究員 竹中 信介

倫理・道徳を考える際に、行為者の外面としての運の要素を積極的に考慮に入れる立場を取り、徳と幸福、平等、責任というトピックごとに論点を整理した。アリストテレス、ネーゲル、ウィリアムズらの運に関する哲学的・倫理学的研究が主要な参照軸となった。

人生(life/生命・生活)とは、偶然と必然の織り成す網の目において、各人がいかに生きるかに応じて運ばれていくものであり、そのようにして折り重なっていくものを運命と呼ぶことができる。結論的には、必然的な意志や選択のみならず、運という偶然的な要素を含めて、我々の人生の全体が構成されている事実が明らかになった。さらに、我々の運命は各人の生き方次第で、固定的なものにもなり、流動的なものにもなり得る。従って、人生における運という要素にみずから気を配り触れようとする(そして、ときに運に賭ける)生き方は、自他の運命を動かす契機となる。この点を本報告での1つの結論として提示した。